人間発達教育研究センターの概要

Research Center for Human Development and Education

１．人間発達教育研究センターの目的

本センターの前身は、子どもの発達過程の解明を基礎としたより良い養育や保育、教育のありかたを提案していくことを目的に2002年4月に学内措置センターとして設置された「子どもの発達研究センター」であり、翌2003年度には文部科学省に認可されて「子ども発達教育研究センター」として正式に発足した。2008年4月には視点を広げて、生涯にわたる人間の発達と教育に関する総合的な研究業務をおこなうことを目的とした「人間発達教育研究センター」に改組し、さらに、2010年には、人間発達科学研究部門、乳幼児教育環境に関する研究部門を擁し、本学内外の研究・教育者の協力を得ながら次に掲げる領域の研究業務を行っている。

１．人間の発達過程に関する縦断的追跡研究

２．格差センシティブな人間発達科学の創成に関する研究

３．乳幼児教育環境に関する研究

２．人間発達教育研究センターの部門構成と各部門内容

人間発達教育研究センターでは、次の２つの部門を設けて活動を展開している。

【人間発達科学研究部門】

基礎的な人間の発達過程に関する縦断的追跡研究を展開するとともに、グローバル COE事業担当者による「格差センシティブな人間発達科学の創成」に関する研究を行っている。

教育研究拠点形成の目的

2007年（平成19年）に、本学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻から申請していたグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」が採択された。グローバルCOEプログラムは、大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としている。2007年度（平成19年度）には「生命科学」、「化学、材料科学」、「情

報、電気、電子」、「人文科学」、「学際、複合、新領域」の 5 分野について合計 281 件の申請の中から、審査を経て 63 件が採択されたが、本学の拠点「格差センシティブな人間発達科学の創成」は、人文科学分野で採択されたものである。

人間発達科学専攻は、21 世紀 COE プログラムに引き続き、2011 年度（平成 23 年度）まで 5 年間にわたって「社会的公正に敏感な」女性研究者を育成し、国際的にも通用する教育研究拠点を構築するために、さまざまな教育プログラムや研究プロジェクトを遂行している。グローバル COE プログラムは国際的な意味で人材の吸引力を持った拠点形成をめざした高度な研究プロジェクトを走らせながらも、プログラムの第一の重点は若手研究者の育成と教育にあり、博士後期課程の大学院生やリサーチ・フェローやアソシエィト・フェローなどに対する教育プログラムの充実を図っている。教育プログラムとしては、リサーチ・アシスタントの雇用、院生・若手研究者を対象とした研究プログラムの公募、海外学会や調査への派遣、英語論文作成・発表支援、各種セミナー・シンポジウムの開催、実践現場との協働研究プログラムなどを実施している。

人材育成と研究活動の概要

本拠点は、格差にセンシティブ（敏感）な人間発達科学の創成と、その担い手となるソーシャル・ジャスティス（社会的公正）にセンシティブな人間発達研究者、特に女性研究者の養成を目的として形成されている。従来の人間発達研究者は、自身の研究領域と他の研究領域との関係、および、自分の行っている研究と社会とのつながりについて、十分自覚的でないタコツボ化の傾向、研究世界と実践世界が遊離する傾向、社会的課題意識が希薄化する傾向があった。本拠点では、こうした傾向を克服する新しい人間発達研究者像を、ソーシャル・ジャスティスにセンシティブな研究者として規定し、その育成を教育的な課題とする。

研究活動については、21 世紀 COE「誕生から死までの人間発達科学」での実績と成果をふまえて、人間発達の時間軸を貫く格差の次元を国際的格差、教育・社会的格差、養育環境格差の 3 つの次元に設定する。そして、それぞれの格差ごとに発達の時間軸を貫く格差の再生産構造を浮かび上がらせるとともに、その解明と構造転換への道筋を探究することをめざしている。

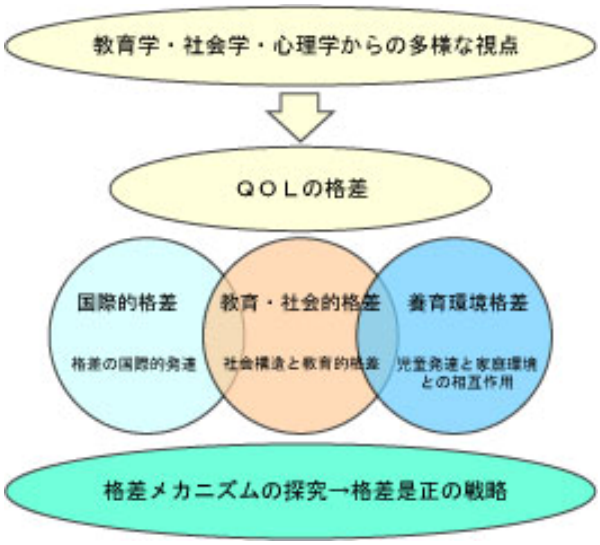

図１　本ＣＯＥの組織

第１の国際的格差領域では、グローバリゼーション下における国際的格差の構造に着目し、国際的格差構造の解明とその是正のための教育支援のあり方を発達の各ステージに即して解明する。第２の教育・社会的格差領域では、教育や職業を通して現れる格差のメカニズムを明らかにすることを課題とする。主に教育学的、社会学的視点から、学力格差の構造、トランジッション（移行期）における格差、老年期における格差等を扱う。第３の養育環境格差領域では、養育過程における家庭や保育・教育施設の中での環境と個人との時系列的な相互作用に着目し、人間の発達に沿ったケア・クォリティやＱＯＬ（クォリティオブライフ）に現れる格差について、主に心理学的視点からその解明をめざしている。

【乳幼児教育環境に関する研究部門】

この部門は、お茶の水女子大学特別経費「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築(ECCELL)」事業として 2010～2015 年度(平成 22～27 年度)の 6 ヶ年計画で推進される。

東京女子師範学時代以来の 130 年以上にわたる幼児教育・保育・児童学研究を踏まえ、現在の本学における学部・大学院教育、附属校園（附属幼稚園、附属いずみナーサリー等）教育・保育、社会人教育課程プログラム、幼稚園教職課程教育、境界領域研究、保育研究誌企画等、多岐にわたり展開されている乳幼児教育・保育に関する教育研究リソースを結集し、同一キャンパスを活用して乳児から老年までが共に「乳幼児教育」を基軸として相

互に学び合う場を創造し、新しい生涯教育のモデル（ヴィジョン）を社会に発信することを目的とする。

お茶の水女子大学における主な乳幼児教育リソース：

①大学院・学部における「保育・児童学」の教育カリキュラムのシステムおよび教育・研究方法の再構築

②生活科学部特別設置科目における現職保育者を主とする社会人プログラム（学び続ける場）＝夜間常設講座、土曜保育フォーラム、地域連携保育フォーラム等

③附属幼稚園・附属ナーサリーにおける乳幼児の保育・教育

④保育研究誌『幼児の教育』（1901 年創刊）の企画

社会人・保育現職者と、大学の学部生・院生とが共に、乳幼児教育を主題に学び直す場を重層的に創造し、総合的保育者養成のカリキュラム開発とその評価を行う。

ECCELL（エクセル）とは、Early Childhood Care / Education and Lifelong Learning（乳幼児教育と生涯学習）を意味する本プロジェクトの略称で、「乳幼児教育部門」と「生涯学習部門」の 2 セクションにより構成されている。